

平成二十九年度における事業並びに財務状況の報告をします。

また、自己評価・学校評価書を掲示して情報公開します。ホームページからも閲覧可能です。

期間 平成三十年五月二十八日より

(学) 藤田学園 藤田幼稚園

理事長・園長 藤田道信

事業報告書

平成29年度



設置者	学校	法人	藤田	学園
幼稚園名		藤田	幼稚園	
理事長・園長		藤田道信		
所在地		静岡県富士市大淵2964番地の1		
定員数	300名	認可クラス数	年少	年中
			3	3
学年定員数		90名	105名	105名

理事長挨拶

本学の使命は、建学の精神に基づき運営され、幼児教育を通じ人間社会の幸福をつなげ・ひろげていく架け橋となるよう、研鑽努力することあります。

教育内容の充実発展・施設設備の整備充実・保護者の教育費の負担軽減・家庭教育の充実を運営の柱とし計画運営を目指しています。その為には、学園を取り巻く社会環境や内部環境を分析した経営を行わなければなりません。本学の発展は本質を見失わず、着実に歩みを進めたいと願っています。法人の役員・教職員、そして保護者の皆様とともに、子どもたちの幸福と健やかな成長を願い挨拶とします。

建学の精神

人間の一生の中で無限の可能性に富み、人格形成に大きく影響をおよぼす幼児期の教育は何事をおいても大切な時期である。家庭教育、社会教育の与えるものは、幼児の生涯を左右するといつても過言ではない。集団生活の中で、幼児としてより多くの遊びの中で体験を積み重ねさせ日常の基本的生活習慣と社会性を養い、心身ともに健全なる発達を助長することが教育の場であり、使命である。その責任は無限であり、やがて次代を担う若者としてたくましい人間育成の理念と信念をもつて、日々自ら研鑽に努め教育道をもって地域社会の先覚に努めることにある。

法人の概要

(1) 学校法人

学校法人名	藤田学園			
学校法人認可年月日	昭和・平成 52年3月12日			
学校法人登記年月日	昭和・平成 52年3月12日			
設置する園名	設置認可年月日			
幼稚園	藤田幼稚園			

(2) 役員の数

(単位：人)

選任区分	定数	実数	任期
理事	園長	1人	1人 4年
	評議員	2人	2人 4年
	学識経験者	3人	3人 4年
		人	人 年
		人	人 年
	理事計	6人	6人 年
監事	2人	2人	4年

(3) 評議員の数

(単位：人)

選任区分	定数	実数	任期
教職員	3人	3人	
卒業生	5人	5人	4年
父母	人	人	年
学識経験者	5人	5人	4年
	人	人	年
	人	人	年
	人	人	年
評議員計	13人	13人	4年

幼稚園の概要

教育目標・方針	【富士山のように】 1. じょうぶでねばりづよい子 1. ゆたかなこころの子 1. どりよくしてつくりだしていく子 1. すすんでとりくめる子 こどもを第1に 個の尊重と集団生活の調和 時代認識と将来性 子どもの健やかな成長を教師、保護者、地域社会が連携協力し支えます。 思いやり感謝の気持ちを大切にします。公共性を重んじみんなでルールマナー を進んで守ります。普遍である本質を守り時代の変化を認識します。
特徴	いきいきと幼児が生活できる環境を常に思考し実践をしていく。

幼稚園

学級名	満3歳児			3歳児			4歳児			5歳児			学年計
	男	女	小計	男	女	小計	男	女	小計	男	女	小計	
つくし	6	5	11										11
すみれ				8	13	21							60
たんぽぽ				8	12	20							
れんげ				7	12	19							
ゆり							13	11	24				70
ばら							14	10	24				
ひまわり							12	10	22				
ふじ										13	11	24	72
さくら										12	11	23	
もも										14	11	25	
													213
合計	6	5	11	23	37	60	39	31	70	39	33	72	213
	男	女	学年計	男	女	学年計	男	女	学年計	男	女	学年計	

※満3歳児入園は3歳児クラスにて対応

教員数	園長	副園長	教諭	助教諭	養護教諭	講師	臨時教諭	その他					合計			
									男	女	計	男				
職員数	事務長	事務主事	事務員	用務員	パート運転手	調理員	警備員	パート事務	その他				合計			
29年度卒園児																
										1113.35		m ²				
施設名	保育室	遊戯室	預かり室	防災倉庫	建物面積				園地面積				m ²			
					ひだまりの森				9593							
	9	1	1	1												

事業方針	事業の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・園児ひとり一人の成長発達の課題を踏まえ教育内容を構成し実践する。 ・集団生活の中で様々な体験を積み生きる力の源泉を育む活動を展開する。 ・家庭に対して、子育て支援の充実ともに家庭教育の重要性を伝える。 ・幼児期に大切な育ちについてまずは保護者そして地域社会へ訴える。 ・地域社会との関わりを大切にし、教育経営を推進し学園運営を実直に進めていく。 ・宣伝広報を充実し、幼稚園の理解を深めらる事業を展開する。 ・満三歳児教育と預かり保育の充実をはかる。 ・大淵地区の幼児保育施設の状況と乳幼児の出生数から今後の本学の在り方を検討する。(小規模保育や企業内保育、認定こども園等の研究を進める)
	予算編成の基軸	<ul style="list-style-type: none"> ①園舎施設の老朽化また改修が必要な施設の整備を進める。(主として屋根の塗装工事) ②教材・教具の整備を進める。(プール施設の更新・ほっとルーム等の設備備品等) ③ひだまりの森の環境整備。 ④防災・防犯器材や備蓄品の仮設倉庫の購入。 ⑤園児の福利厚生を充実していく。 ⑥スクールバスの更新等に備える。
	具体項目	内 容
1	教育計画	教員の資質向上と実践 幼児の育ちについて教育実践を通じ検討し互いに高めあう。 園内外の研修会において個々の資質向上に努める。 感性を磨くよう、多様な危険を積極的に試みる。(人材開発:チャレンジ)
		個に即した教育 園児一人ひとりの心身の成長・発達(能力、感性)を育むよう、個々の課題に対しきめ細やかな指導・支援を実践していく。また、障害等、専門家と協力し、保護者との共通理解を深め適切な指導支援に心がける。
2	研究計画	研究活動 園全体の教育テーマを決め、そのテーマから広がる創造していく総合教育を展開するよう、研究していく。環境教育をテーマにする。
		自己点検評価 教師自らが、自己点検・評価をし自己研鑽に励む。また学校評価の導入からより良い教育運営が図られるよう評価の整備を進める。
3	地域連携計画	地域連携 地域コミュニティーの主催する行事、防犯防災などの事業、地域教育機関との連携を図る。体育祭・文化祭・消防祭りなどの参加、研究会研修会等の参加、マンパワーの地域貢献。地域として富士山を踏まえた事業協力。
		幼少保育連携 小学校との情報交換の充実。子ども達の交流など機会を使って園児と児童、教員間の交流を図る。(行事のすり合わせや日常からの情報交換など)
4	施設設備計画	教育研究 園児の教育活動を充実する為の設備整備を進める。機器備品の状態を確認し必要性に応じ廃棄・整備していく。日常の管理に心掛け耐久性の向上や美化に努める。
		施設設備 教育環境設備の対応を図ると共に、園舎施設の老朽化また修繕について計画性をもって対応する。特に遊戯室や保育室の屋根の塗装は今年度実施する。
5	管理運営計画	事務・園務運営 事務内容の分担性により、事務の効率化と確実性を図る。自己点検評価、個人情報、情報公開にも適切に対応していく。
		労務環境 女性の働く場であり、家庭をもちながらの労働環境を整備し、教育の充実・子育て支援の充実に繋がる相乗効果を目指した管理のあり方を推進していく。
6	財務計画	留保金の確保 無駄な経費を削減するよう努め留保金の確保を行い、将来の安定を図る。 しかし、教育内容の充実と、園児の福利厚生経費はそのうちではない。最低でも減価償却額は確保していくよう努力する。
		計画的運営 教育環境の充実と活気を持ち、選ばれる幼稚園を目指しながら、子ども子育て新制度・幼児教育振興法の対応を十分に検討し、将来必要不可欠になるだろう財務において長期的計画をもって運営する。 また、地域性を踏まえ今後の経営を思慮深く進めるが、基本は子どもの最善の利益を追求する。 (今後の本学の将来を十分に検討し予算化を図る)

事業方針	教育事業の推進	園児一人一人の成長・発達課題に寄り添いきめ細やかな教育支援をしてきました。教師は子どもの代弁者となり、保護者や専門機関、また教員同士でその子の状況状態を共有し常に子どもが喜びや達成感を味わい、意欲的に関わる力や挑戦する気持ち、成長する事の大切さを感じ、身につけられるように進めてきました。個人の成長と共に集団生活で身につける大切な共同性や協調性また自らの意思を表現する力の育みを幼稚園教育の中で存分に發揮し体験できるよう教育プログラムの変遷に努め、、もってその教育活動を進めるための環境を整えるよう努力をしてきました。		
	実施事業	①施設改修が事業として遊戯室屋根の防水塗装工事を実施しました。 ②教材・教具の整備を進める。プール施設の更新を補助金を確保し実施しました。 ③ひだまりの森の環境整備、富士林業組合の協力により振興しています。 ④防災・防犯器材や備蓄品整備を防災の日に実施し更新しました。 ⑤園児の福利厚生は常に予算確保とその充実執行に努めてきました。 ⑥スクールバスの更新等に備え、現在の車両の整備で経費節減と確保を実行しています。		
	具体項目	内 容		
1	教育運営	計画の見直し 資質向上	教育計画の下、実践してきた内容について、自己反省・学年反省・全体反省及び、保護者評価(アンケート)より自己評価を重ね、よりよい計画や内容に変遷するよう努めました。来年度への計画への反映。 日頃の職務の多忙性から、自ら時間を確保しての研修等への参加は幼稚園業務の妨げになるため、園児の長期休み中に開催される研修会での研鑽がもっぱらである。日常の反省評価で自己研鑽に努める事が大切である。	
2	研究	園目標との連続 自己点検評価	園目標であった【よろこびをわかちあえる子】について、その達成について教育計画を立案しながら研究心をもって取り組んできた事で実践的な研究計画進められた。 教育活動を進めるにあたり、自己評価・自己点検無しで教育運営は進められない、常に現場のその瞬間に反省評価という視点から教育をしていく事の重要性を認識して取り組んできた。	
3	地域連携	地域連携 幼小保等連携	大淵地区という地域性の中で、特に農業関係事業との連携が密であり子ども達のよりより体験学習が進められている。またコミュニティーも幼稚園への期待が大きく協力している。 園児達や学童同士の連携は様々に行事化され繋がりが深まっている。また幼稚園という仕事という立場での期待も大きく職業体験的な生活科や家庭科的な連携も広がっている。校長や園長の訪問も実践できている。	
4	施設設備	教育機器 施設設備	視聴覚教育のフィルムや映写機が寿命となり、PCやプロジェクターを使用できるよう整備を進め、卒業記念品もDVDと準じた手配により確保を進める事ができた。日常の備品管理は例年通り無駄を省いて実践した。 本年度案件であった遊戯室屋根の防水塗装工事を行った。また、耐用年数を過ぎ損傷があったプールを更新し来年度の教育活動の充実を図る事ができた。	
5	管理運営	事務・園務運営 労務環境	園務分掌により教職員一人一人が自己責任のもと、互いに組織運営を担い滞りなく運営できた。新任も多面に渡り自ら業務習得に努めた。 日常の労働時間は業務上、それぞれの自覚と奉仕また意欲によって補填されている。園児への献身的な教職員の熱意に支えられている。その意味からも園経営の中で報いたいが、感謝でしか表わせない。	
6	財務	留保金の確保 運営	無駄な経費を削減するよう努め留保金の確保の努力は継続してきた。しかし、教育内容の充実と、園児の福利厚生経費はそのうちではない。減価償却額は全額ではないが近い数字を何とか確保した。 園児数の減少にもなう収入減が進んでいる、教職員の身分保障の確保も困難である中で、園経営の園児確保、選ばれる幼稚園を目指して何とか現在に至ってる。危機感をもって運営を進めている。	

平成 29 年度 学校関係者評価書及び自己評価総評

(改善方策及び結果公表シート)

平成 30 年 2 月 23 日 まとめ

1 幼稚園の教育目標

人間の一生で無限の可能性に富み、人格形成に大きく影響を及ぼす幼児教育は何事をおいても大切な時期である。集団生活の中で幼児としてより多くの遊びの中で体験を積み重ね「富士山のように」1.じょうぶでねばりつよい子 2.ゆたかなこころの子 3.どりょくしてつくりだしていく子 4.すすんでとりくめる子を目指し、やがて次代を担う、たくましい人間、豊かな心をもって大きくはばたく人間育成を目標とする。

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

- 園児ひとりの成長発達を助長するため、適當かつ適切な環境を整備し教育実践がされているか。
- 教師は常に自己研鑽し資質向上に努めているか。
- 幼稚園と保護者は、子どもの成長発達の課題を共有し理解し合い協力しているか。
- 園児達が地域の中で認められ守られる活動を推進しているか。
- 子育て支援の充実につとめているか。

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	理 由	関係者評価
①保育の計画性	B	教育経営書及び教育課程に基づき、過去の経験や実績を踏まえ教育計画を進めている。しかし、安心と安全性から内容のマンネリ化が生じている事もある。教育は生ものである事を再認識し、目の前の園児達にとって、家庭環境や社会環境の変化や要請を見極めながら質の高い教育運営を進めなければならない。その意味からも経験者若い教員がもっと意見や提案が出来るような環境づくりに留意したい。	A
②保育のあり方 幼児への対応	B	ひとりひとりの園児の発達課題をとらえ支援・指導をするよう努めてきた。遊びや活動の中で人との関わりを重視し心の育ちと並行し知力(考える力)の向上、また、漸全身的運動能力の発達を基盤にした体力づくり、健康づくりを目的に保育の在り方を検討し実践してきた。	B
③教師として資質 能力、適正等	B	自らが資質向上を図ることは教師の基本である。学ぶことを止めたら教師は続けるべきではないという信念で互いを鼓舞できる教師間の雰囲気を大切にしてきた。園外での研修は長期休みで対応できるが、日々の園内研修は困難であった。園長がその都度、場面を見ながら指導や情報の確認を行い教師集団の資質向上に努めてきた。	A

④保護者への対応	A	保護者からの苦情はほとんどなく、よりよい保育環境にたいして我々が気がつかない保護者視点からの改善点へのお願いや提案がされることであった。本園の保護者が幼稚園教育に対する理解の高さや協力性には感謝の一語である。今後も日々の保護者との対話に大切に実践していきたい。また、共に子どもを真中にした考え方を共有するよう常に発信していく事が大切である。	A
⑤地域の自然や社会との関わり	B	幼稚園の人材・施設を地域に提供し貢献を図っている。本年度も、ひだまりの森をまちづくり協議会に笹場(富士山名勝)事業や芸術村へ協力、地域コミュニティーの事業参加、幼年消防クラブ活動、麦畑迷路、畑作から収穫と食育体験、お茶のウガイ等の健康教育、自動車学校の安全教室等など地域の様々なご協力に支えられている事に感謝し、今後も地域と共に園児達の成長を支え地域の発展にも貢献していきたい。	A
⑥研修と研究	B	園内研修の時間の確保が難しい。子育て支援等を担う事が増大し、教員の就業時間にその研修時間の確保が今だ課題である。研究課題やその方法手法の工夫をし、研修研究の充実を図りたい。この反省は昨年度も同様である今後も重要な課題である。	B
経営評価		経営部門を園長が自己評価している	

結果・評価 A 十分達成されている B 達成されている
C 取り組まれているが成果が十分でない D 取り組みが不十分である

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

教育重点目標である「よろこびをわかちあえる子」をテーマとし教育保育を実践した。また、その実践をホームページや配布物等を通じて事業の主旨また成果を公開し。子ども達の育ちについて保護者や地域社会に発信し、幼児教育の必要性と重要性を学問的ではなく、身近な体験のなかで感じていただけるよう情報を提供してきた。日頃から子ども達が自ら関わり知識を求め、その知識を使って創意工夫し課題や向かって取り組み、心情・意欲的・忍耐・達成感を味わい非認知力の育成を目指した。また地区行事や公的機関・その他支援者の協力のもと、地域社会で子ども達を見守り育てていけるよう積極的に地域との連携を図ってきた。その中で、課題となっているのが教職員の資質向上のための時間の確保である。子育て支援を充実させることで教職員の負担が増え、研修や研究時間の確保が課題となっている。しかしながら本園の保護者は幼稚園の理解者として、いろいろな幼稚園からのお願いを理解し協力をしてくださり感謝の一語である。この信頼を裏切らないよう教職員はあらためて心得、自己研鑽に努め、お子様の成長を通じ恩返しができるようますます努力していかなければならない。その上でこれから経営で何が大切か研究を進めていくことが大切である。その時も子どもを我々社会の真中に置いて考える事が本園の基本である。

5 今後、取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
子ども・子育て制度 (昨年度継続)	地域性・地域の実態を十分に踏まえ検討する。子育て支援や移行については慎重に考えて行く。本学は真の児童の幸福と人間社会に於いて変化に惑わされない確かな不変たる人間教育の基本を柱とし実践していく児童教育機関として行く事は将来に渡って信頼される園運営を目指していく。
教職員の資質向上	園内研修の在り方を検討し、子どもを見る目を養い研鑽に努める。また、教員同士が情報を共有し互いに高め合うようにする。
子育て支援の充実	時代に必要な子育て支援の在り方を、制度も学びながら、公共団体との連携を深めて行く。
ひだまりの森の教育活動の充実と地域貢献	環境教育を通じ自ら考え自ら活動し多くの経験から生きる力を育んでいく。また地域社会と『ひだまりの森』で繋がることで幼稚園の発展を進めてたい。

6 学校関係者評価委員会からのコメント

3月2日(金)

- ・ひなまつり音楽会の主旨に感動しました。子ども達の成長がとてもうれしく、保護者の皆様も本当に幸せそうでした。幼稚園の行事にしっかりと意味をもっていることの大切さこれからも大事にしてください。
- ・遊戯室屋根の防水塗装を行い、色も緑となり幼稚園の雰囲気がまた良くなった。
- ・公立幼稚園の在り方の報道があったが、今後、藤田幼稚園はどんな施設として貢献していくべきか。
- ・大淵地区の子どもが減っている、今後、入園者が激減することが考えられる。幼稚園は大丈夫か。
- ・先生方は子どもを真中にとよく言われます。また保護者との関わりも上手してくれていると思う。
- ・ホームページでよく行事が更新され見ているが、良い事が書いてある。たくさんの人を見てもらえるよう宣伝してみたらどうか。
- ・ひだまりの森は本当に幼稚園にとって大切な施設、子ども達にとってここ大淵ならではの経験が健やかな成長に役立つだろう、これからもひだまりの森の整備を充実していってほしい。
- ・教材教具・施設も頑張って補修や改善に努めて来ていると思う。LED・屋根の修理・新プールの設置、階段の手すり・外壁の塗装などが見られました。
- ・小学校・中学校・高校・老人施設等との交流は子ども達の経験上、大変良いと思います。また、地域の中の幼稚園として認知が高い証だと思います。
- ・いろいろな行事があって、その思いが感じられた運営がいいと思います。単純な行事でなくいつも心が感じられ参加するととてもいい気持になります。
- ・先生方本当に明るく接してくれるので子どもたちは幸せだなとつくづく思います。
- ・犬の糞対策も大変です。地域にも迷惑でしょう。幼稚園で張り紙した事は大きな影響があると思います。
- ・プールのカバーの件をお聞きし通常 20万円位係る所を、3万円で自作されたという事で経費削減も園長みずから頑張っていて関心です。

平成29年度 学校法人藤田学園 藤田幼稚園 情報公開

1.財務状況

【資金収支計算書】

科 目	決 算 額
収 入 の 部	
学生生徒等納付金収入	46,631,700
寄付金収入	71,000
補助金収入	42,955,000
付随事業(補助活動収入)	15,726,510
受取利息・配当金収入	68,479
雑収入	2,274,562
借入金等収入	0
前受金収入	1,470,000
その他の収入	3,065,771
内部資金収入	0
資金収入調整勘定	△ 2,886,524
前年度繰越支払資金	23,652,345
収入の部 合 計	133,028,843

支 出 の 部	
人件費支出	69,904,168
経費支出	32,714,747
借入金等利息支出	0
施設関係支出	1,522,600
設備関係支出	2,390,720
資産運用支出	5,562,058
その他の支出	4,172,000
内部資金支出	0
資金支出調整勘定	△ 1,703,324
次年度繰越支払資金	18,465,874
支出の部 合 計	133,028,843

【財産目録】

科 目	金 額
基 本 財 产 計	268,059,971
運 用 財 产 計	19,817,398
資 产 の 部 合 計	287,877,369
固 定 負 債 計	567,000
流 动 負 債 計	4,349,354
負 債 の 部 合 計	4,916,354
差 引 純 資 产	282,961,015

【事業活動計算書】

科 目	決 算 額
教育活動収支の部	
学生生徒等納付金	46,631,700
寄付金	71,000
補助金	42,955,000
事業収入	15,726,510
雑収入	2,274,562
教育活動収入合計	107,658,772
人件費	69,904,168
経費	39,054,017
教育活動収支差額	△ 1,299,413
教育活動外収支の部	
受取利息・配当金収入	68,479
その他教育活動外収入	0
教育活動外収入合計	68,479
借入金利息	0
その他教育活動外支出	0
教育活動外収支差額	68,479
経常的収支差額	△ 1,230,934
事業活動収入計	107,727,251
事業活動支出計	108,958,185

【貸借対照表】

科 目	本 年 度 末
資 产 の 部	
固定資産	264,923,863
流動資産	26,692,345
資 产 の 部 合 計	291,616,208
負 債 の 部	
固定負債	1,323,000
流動負債	6,101,259
負 債 の 部 合 計	7,424,259
基 本 金 の 部	
第1号 基本金	305,085,002
第4号 基本金	7,713,672
基 本 金 の 部 合 計	312,798,674
繰越収支差額	△ 28,606,725
純資産の部合計	284,191,949
負 債 及 び 純 資 产 の 部 合 計	291,616,208

園のコメント

少子化による園児数減による収入減が進む。しかし、教育の質向上のための人材確保から人件費の比重は大きい。また教育の充実を図る為には効果的な費用対効果を進めなければならない。本学の納付金は市内私立幼稚園においてもっとも低い事も原因である。経営理念である保護者負担軽減とよりよい教育の振興を目指す志をもって学園運営を進め、有能な人材と教育環境の向上をもって社会に貢献する事を使命としている。また、身を投じて熱心に教育に打ち込んでくれる教職員に感謝している。教員の身分向上について内外的に努力していく事が管理者の使命であると自覚する。本学は常に教育環境の充実を図り、園児や地域に教育また地域コミュニティに貢献する目的を持ち、教職員の献身的な理解努力で取り組んでいる。今後も園児確保や施設の充実を計り、計画経営に傾注していくことを恒常的な目的とする。また、必然である防災防犯・健康安全・保健衛生事業及びこれらの教育を幼児期からの重要な育みとして積極的に取り組んでいく。今後も引き続き、子ども子育て新制度の内容と地域と家庭のニーズを研究するとともに、何よりも子どもの最善の利益を追求する教育施設として使命を果たすべく努力していきます。

理事長・園長 藤田道信